

令和6年度仙台市認知症施策における新規の取組み

1 認知症の日(9月21日)および認知症月間(9月1日～9月30日)の取組み

令和6年1月、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行され、認知症の日および認知症月間が制定された。本市では、9月に様々なイベントを開催し、認知症の日及び認知症月間の普及・啓発を図ることで、認知症への正しい理解を推進する。

- 2024 世界アルツハイマーデー記念講演会
 - ・9月14日(土)に太白区文化センター「楽楽楽ホール」にて、公益社団法人認知症の人と家族の会宮城県支部と共催で、翼合唱団のコンサートと、脳科学者恩蔵絢子氏の講演会を開催する。
- シニアいきいきまつり(仙台市高齢者生きがい健康祭)
 - ・9月28日(土)に開催するシニアいきいきまつりに認知症啓発ブースを出展し、認知症に関する知識と認知症の人への正しい理解および「新しい認知症観」の普及啓発を行う。
- 市内地域包括支援センター等における活動
 - ・認知症カフェや介護予防教室等の開催時に認知症の日や認知症月間のPRをする。
 - ・認知症の日及び認知症月間をPRする「のぼり」を制作し、市内全地域包括支援センターへ配布済み。認知症月間に掲示による普及啓発を図る。
- 市政だより及び仙台市ホームページにて周知啓発

2 希望をかなえるヘルプカードの普及・活用推進

認知症の人が、自分が望んでいること(やりたいことなど)を安心してスムーズにできるために自分で使うカードである「希望をかなえるヘルプカード」の普及・利用促進を図る。

- 仙台市版「希望をかなえるヘルプカード」およびチラシの作成・配布
 - ・仙台市版「希望をかなえるヘルプカード」および周知チラシ・使い方チラシを作成し、市内全地域包括支援センターおよび各区・総合支所等へ配布済み。
- 各種研修、講座、地域包括支援センター等地域活動での周知
 - ・認知症介護実践研修、認知症対応力向上研修、市民向け出前講座、交通局従事者向け研修等の各種研修・講座等で周知を行う。
 - ・地域包括支援センター等が認知症カフェや圏域会議等、活動の中で周知を行う。

3 スローショッピングモデル事業の実施について

認知症の人が安心して買い物ができる体制づくりとして、令和6年度に市内商業施設にて、スローショッピングモデル事業を実施する。

- 今後の予定
 - ・10月から認知症の人と家族、実施予定商業施設の圏域担当である地域包括支援センターを含む関連団体、商業施設担当者等とワーキングを実施する。
 - ・11月から認知症の人や買い物に不自由を感じる高齢者等を対象とし、認知症サポーター養成講座または認知症パートナー講座修了者、地域包括支援センターとともにモデル事業を実施する。

4 認知症の人と家族への一体的支援事業の実施について

認知症の人と家族が希望を持って暮らし続けることができるよう、家族をひとつの単位とした支援を行い、他の家族との出会いによる自然な学びを得て、家族の関係性の再構築や良好な家族関係の維持調整に役立つプログラムを実施する。

- 長町エリアでの一体的支援プログラムモデル事業を実施
 - ・長町地域包括支援センターや小規模多機能型居宅介護事業者とともに、令和6年5月から令和7年3月まで全6回の一体的支援プログラムを実施。
- 認知症の人と家族への一体的支援プログラム事業の拡充にむけた取組み
 - ・公益社団法人認知症の人と家族の会宮城県支部に、認知症の人と家族への一体的支援プログラム運営支援事業を委託。以前より当該団体が行っている『本人・若年認知症のつどい・翼』での一体的支援プログラムでの実績を基に、長町エリアでの一体的支援プログラムモデル事業に対して運営支援を行う。
 - ・仙台市認知症疾患医療センターでの一体的支援プログラム事業実施に向けてコアメンバー会議に出席する等、意見交換を行う。

5 認知症地域支援推進員の配置先の拡充について

本市は地域包括支援センター、区・総合支所・地域包括ケア推進課と重層的に認知症地域支援推進員(以下、推進員とする)を配置し、各包括圏域、行政区、全市での効果的な認知症施策推進を図ってきた。

推進員の配置目的である「認知症の容態の変化に応じすべての期間を通じて必要な医療・介護等が有機的に連携したネットワークを形成」するために、認知症高齢者グループホームへ推進員を新たに配置する。地域包括支援センターの推進員に加え、地域の中に推進員が複数人配置される体制をつくることにより、地域包括支援センターと連携を強化しながら、様々な状態像の認知症の人が安心して暮らし続けられるような地域包括ケアシステムの推進を図る。

○仙台市認知症地域支援推進員研修(新任者)の対象者拡大

- ・令和6年度より認知症高齢者グループホーム職員を対象(既に認知症カフェの運営等を実施。認知症介護指導者及び認知症介護実践リーダー研修修了を条件とする)とした。

6 「本人・家族・地域の方の声を聴くシート」の実施について

認知症地域支援推進員等は、さまざまな機会を通じて、認知症の人や家族、そして職域を含む地域の方と関わり、「声」を聴いている。「本人・家族・地域の方の声を聴くシート」を活用し、認知症の人等の何気ないつぶやきや想い、希望等の「声」とそこから得た気づき等を記録・蓄積する。今後、「声」を共有する仕組みをつくり、認知症の人とともに想いに沿った取り組みを進めていくために活用する。

令和6年度より、地域包括支援センターは9月と3月に地域包括ケア推進課へシートを提出することとしている。

「認知症の本人・家族・地域の方の声を聴くシート」例

NO	だれが？	いつ？	どんな言葉	気づき(考察・共有)
1	本人が	認知症カフェで	忘れないように、スマホでアラームを設定したんだけど、鳴っても何のアラームだったのか分からない時があるんだよね。	・本人は忘れないようにスマホを使って工夫しようとしている。 ・アラームと用件が一緒に設定できるアプリを活用できないだろうか。

和歌山県御坊市「本人の何気ないひとことシート」を一部改変

参考文献: 令和4年度老人保健事業推進費等補助金「認知症の人本人の声を市町村施策に反映する方策に関する調査研究事業」
「今と未来のために、認知症の本人とともに、暮らしやすい地域をつくろう」一般社団法人 人とまちづくり研究所

7 仙台市職員への新しい認知症観の普及啓発について

○ 仙台市職員の「新しい認知症観」を広げるための取組み

- ・認知症の人と仙台市職員の交流会を「一般社団法人認知症当事者ネットワークみやぎ」と共催にて開催。保健福祉関連部署のみならず、幅広い分野の仙台市職員が参加し、認知症の人が日頃感じている想いや声を聴き、認知症の人へ理解を深めた。
- ・仙台市認知症対策推進会議委員である丹野智文氏の実話をモデルとした映画「オレンジ・ランプ」の上映会を「一般社団法人認知症当事者ネットワークみやぎ」・「宮城の認知症をともに考える会」・「医療法人社団清山会」と共催で研修として実施し、職員の新しい認知症観を広げる。